

# こども教育会議 会議録

日時	場所	出席	小松市長 浦郷教育長 教育委員（諸石、古場、河内、岡本、森、犬走、奥川、貝原、副島） 朝日小学校（永石校長、田崎教頭）、 浅井副教育長、福田 ICT 教育監、諸岡こども教育部長、教育政策課（山田課長、野口参事、樋渡係長）、学校教育課（古賀課長）、スマイル学習課（諸岡課長、小柳係長） 平川企画財政部長 秘書課（松尾係長） 企画課（古賀課長、朝長係長、富永）
平成28年11月4日（金） 13:00～14:10	武雄市立朝日小学校		

1. 協議件名	第11回こども教育会議 （出張！こども教育会議 in 朝日小学校） ～官民一体型学校武雄花まる学園の取り組みについて～
---------	---

## 議事録

内容	<p><b>1 開会</b>（進行：平川企画財政部長）</p> <p><b>2 議事</b>（議事進行：小松市長）</p> <p>（1）官民一体型学校武雄花まる学園の取り組みについて</p> <p>①学校からの取り組み紹介（朝日小学校 永石校長） ⇒冒頭に、朝日小学校での官民一体型学校の取り組みについて紹介し、その後出席者で意見交換を行った。</p> <p>②意見交換</p> <p>&lt;出席者の意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝日小の支援組織体制は大変すばらしい。（自身の校区でも）朝日小のような組織体制の確立できれば。</li> <li>・花まる学習を取り入れて、子どもと学校と地域の人との接点ができる。地域の人が学校に入るようになった。子どもが元気になれば、参加している大人も元気になる、これも花まる効果の表れではないか。</li> <li>・教育現場に地域を巻き込むことで、地域全体の活性化になる。</li> <li>・最初は地区の役員で仕方なく参加したが、1回参加したら楽しくてこれからもぜひ参加したいという声もある。</li> <li>・学校には目に見えない壁があったが、花まるタイムが始まったことにより、行き来がしやすくなったという声がある。</li> <li>・継続していくには保護者の動きがポイントである。</li> <li>・「花まる」というのは、いかに学校を開き、地域とどう連携するかの根幹だと思う。</li> <li>・各学校同士の「花まる」の取り組みの発表する場を設けたらどうか。</li> <li>・保護者に向けて「花まる」についての交流会、意見交換会、発信会が必要なのではと感じた。保護者の声に耳を傾ける場、保護者の疑問に答える場が必要なのではないか。</li> <li>・保護者は次のサポーターになり得る。PTAの方を“育てる”ことにより、長く続く制度になると思う。</li> <li>・花まるの指導理念「褒める」「待たない指導」を徹底しなおして、信じていくべき。</li> <li>・朝日町の地域のさまざまな人が前向きに協力してくれた。このような空気をつくることはなかなか難しいことであるが、それだけ地域の人が愛着を持っておられるということである。</li> <li>・「花まる」では「一人一人、どの子ども」というの根底にあるが、この規模（朝日小学校の規模）では難しいのではないかと、大規模校は躊躇している点もある。</li> <li>・将来的には、学校の特色を取り入れた花まるタイムを構築してはどうか。</li> </ul>
----	--

- ・支援員からは、小1～4くらいは「花まる」の効果はあるが、小5・6は大人になりかけで嫌がってくるといふ声も聞く。高学年への対応が検討課題との声がある。
- ・9月の中学生の問題行動が激減した。地域の人子どもたちに関心をもっていることが効果としてあると思う。

#### <学校の発言>

- ・あくまでも主観であるが、1時間目のスタートが昨年と比べて静かに入っている実感がある。花まるタイムの集中と発散で心をすっきりさせて、1時間目に入っている。特に、中低学年に良い影響がみられる。
- ・事務職員が花まるタイムの様子を facebook 等で毎日発信している。その様子（知り合いの保護者の参加している様子）を見た保護者が、あなたが参加しているならば私も参加するなどの広がりを見せている。情報発信をすることで、あまり関心のない保護者でも引っ張られて参加するなど良い傾向がある。
- ・（自分の子は内気だから花まるについていけないのではという保護者の不安の声に対しては？との質問に対して）  
できた子ができない子に教え合う場面があり、ああでもない、こうでもないといった子どもたちの交流がある。そういったことを積み重ねていくことによって、内気な児童や自分を表現できない児童をいい意味で巻き込んでいく学級の空気をつくっていく。それには、花まるのメソッドは効果的だと思う。
- ・「花まる」を開始した半年間で新たに不登校になった子はいない。
- ・高学年の児童はやりたくないなという思春期の問題は出てくる。

#### <市長の発言>

- ・「花まる」の取り組みは、地域と学校が一緒になって子どもを育てていくとっかかりである。
- ・情報発信について、保護者が知りたい情報と発信している内容に若干ギャップがあるのかもしれない。保護者が知りたい情報をしっかり把握する必要がある。
- ・テレビでは「わー」と発散している場面が目立つが、それだけではないところがあることを知ってもらう必要がある。画一的な教育ではない、一人一人が今日より明日と伸びていくための教育であるという点を伝えていく必要がある。
- ・「花まる」は、学力とのリンクも当然だが、それ以外に一体どういった意味があるのかを分かりやすいように整理し、知りたい人に伝えていくことが必要だと思う。
- ・朝日小学校の学校としての工夫、保護者のみなさん、地域のみなさんがさらに良くしていこうというのは非常にすばらしい。日頃からの努力に感謝し、敬意を表したい。

### 3 閉会（進行：平川企画財政部長）